地域で支える就労支援を考える

第9回発達障がい理解セミナーが、3月22日(日)、中央ＹＭＣＡジェーンズホールで開催されました。

第一部は、会社の経営方針として「4者(社会、お客様、社員、障がい者)と共生できる会社」を掲げる㈱共同運輸代表取締役の山下敏文さんが講演。約３００名の社員のうち、16名の障がい者が勤務する同社について、山下さんは「障がいを持つ方とともに働くことで、社員の気持ちが優しくなり、仕事に対するモチベーションも上がったと実感しています」と説明。現場の社員と障がい者が理解し合うための環境整備の方法や、障がいを特別視することなく、能力に応じた業務に配置する取り組みが紹介されました。続けて、「雇用する側と専門家だけが就労支援について考えるのではなく、地域全体で支援体制を整えていくことが大切」と話されました。

第二部は、保護者と学校、行政、企業の関係者によるパネルディスカッション。熊本大学教育学部特別支援学校の高森憲吾さんは、「子どもたちは働きたいという意欲や、就業に必要な能力は持っているものの、働く場所やチャンスが少ない」など現状を紹介。会場では、「一人ひとりの得意な分野を活かせる仕事が何かを考えてほしい」「家庭や学校、企業、地域が、それぞれの分野で課題に取り組むことが必要」など、活発な議論が交わされました。

楽しく笑顔で介護に向き合うセミナー

3月7日(土)、14日(土)、21日(土)の3回にわたり、中央ＹＭＣＡを会場に熊本ＹＭＣＡ学院専門学校運営委員会の主催で「楽笑介護セミナー」が行われました。1回目は、生涯スポーツ科の桑原奈緒子さんによる『いきいき楽々体操』。介護を受ける状態にならないよう日常的に気軽にできる体操を習得するため、参加者はいきいきと身体を動かし、汗を流しました。

続く2回目は、老人ケア科の吉田しのぶさんが『楽しく笑顔でできる介護の方法』と題し、家庭内介護を行うための実践方法を指導。老人ケア科の学生5名による、家庭介護の現実を取り上げた劇(写真上)も交えながら、楽しく介護法について説明されました。

最後は、熊本市地域包括支援センター「やすらぎの森」ケアマネージャーの那須久史さんが、『介護予防大作戦！』をテーマに講演(写真下)。写真などを用いて、介護予防の実際をわかりやすく解説してもらい、参加者はいつまでも元気で過ごすにはどうしたらよいか、介護予防の具体的な取り組みについて学びました。各回とも、介護に関するお役立ち情報や介護保険の豆知識についても紹介され、楽しく笑顔で介護に取り組むための心構えを身につけました。

アガペ No.38

総主事 堤　弘雄

ハチドリのように

近年、人類は未来に生きる人々のことを忘れてしまい、物質的な豊かさを追い求め、地球環境を壊し続けてきました。ネイティブアメリカン(アメリカの先住民)は何かを決める時、7代先のことを考えて今やるべきことと、やってはいけないことを決めると言います。私たちも見習いたいものです。

さて、これは、南米のアンデス地方に伝わる話です。『ある時、アマゾンの森が燃えていました。大きくて強い動物たちは我先にと逃げて行きました。しかしクリキンディ(金の鳥)と呼ばれる小さいハチドリだけが、そこに残りました。そして、口ばしに1滴ずつ水を含んでは、飛んでいって燃えている森の上に落としました。また戻ってきては、水滴を持ってゆきます。それを繰り返すクリキンディを見て、大きくて強い動物たちは、馬鹿にして笑いました。「そんなことをして、森の火が消えるとでも思っているのか」。クリキンディはこう答えました。「私は、私にできることをしているの」と言いました。』(辻信一監修「ハチドリのひとしずく　いま、私にできること」光文社)

私たち一人ひとりはこのハチドリのように小さな存在です。しかし、このハチドリが言ったように、自分にできることをやりたいものです。

私たちに必要な発想は、自分が1つのゴミを拾うと地球上から確実に1つのゴミが減るという考え方です。一人の淋しい人に声を掛けると、地球上から確実に淋しい人が一人減るという考え方です。YMCAにはThink Globally, Act locally＝「世界を見つめ地域に生きる」という標語があります。この標語は、地球規模の課題を胸に、地域を構成する私たち一人ひとりの意識と関わりが変化すれば、地域が変わり、地域が変わると地球が変わる、というイメージを伝えています。世界124カ国のYMCAには約4,500万人の仲間(会員)がいます。多くの仲間と連帯してネイティブアメリカンのように7代先の子孫が豊かに暮らせるような地球環境を残しておきたいものです。

相手の立場になって考え、ともに理解を深め合う

■開　催　日／2009年4月3日(金)・4日(土)・6日(月)
■開催場所／中央ＹＭＣＡレクリエーションホール

8企業・団体から99名の新入社員が参加して行われたＹＭＣＡフィランソロピー協会第14回新入社員ボランティア入門講座。ヒューマンネットワーク熊本から講師を迎え、食事介助や、実際に道路に出て車いすの操作を体験しました。

グループ討議では、「介助は声をかけながら行うと、相手も安心できる」「様々な場所にスロープを設置する必要性を感じた」など活発な意見が交わされました。講座に参加した近代経営研究所の本司貫さんは、「相手の気持ちを考え、何を求めているのかに気付く心を持つことが必要だと分かりました」と話しました。

花いっぱいのまちづくり

■期間／2009年4月19日(日)～6月14日(日)※花の日

地域美化活動の一環として、熊本ＹＭＣＡ「花いっぱい運動」がスタート。ボランティアの協力のもと、私たちの住むまちを花と緑でいっぱいにしようという取り組みです。各ＹＭＣＡで、フウセンカズラや朝顔などの種が蒔かれました。成長の様子は、熊本ＹＭＣＡのブログで報告していきます(「ＹＭＣＡ　ブログ」で検索)。また、ご家庭で栽培していただける「びかピカボランティア」も募集中。詳しくは、各ＹＭＣＡでお尋ねください。